

博報財団 第9回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究概要

氏名(在住国名)	Frent Rodica / フレント・ロディカ
所属	Babes-Bolyai University / バベシュ・ボヤイ大学
招聘回(招聘研究期間)	第9回 (2014年9月1日～2015年2月28日)
受入機関	早稲田大学
招聘研究テーマ	日本語・ルーマニア語における慣用語句の持つ文化的な意味の比較・対照研究
研究目的	本研究は百科事典的知識、知覚情報、感情的反応等を表すことのみではなく、国民のメンタリティーに関連するほどの慣用語をより深く理解できることを試みる。従って、本研究は理論的側面と実際のデータ収集という、二つの段階から構成され、日本語及びルーマニア語の背後に存在する事物の捉え方、認識の仕方を学ぶのに、清新なアプローチによる慣用語の検察を目指している。また、日本語とルーマニア語の比較・対照を通じ、日本語専攻の学習者にむけて、両言語の共通点や相違点が理解出来るようになるシラバスの作成することも目的とする。

研究概要:

本研究は言語の哲学的理論を枠組みにしつつ、文化記号論視点また認知意味論視点のアプローチから見られる慣用語の特徴を検察・分析することを試みるものである。この点からいうと、慣用語の実例を通して、日本語とルーマニア語がそれぞれの「素質」を明らかにすることが可能になると思われる。そのほか、「伝統的な言語文化」慣用語は両言語において、どのように、どんな程度で活発な機能・役割を果たすかと、本研究は論証することを目的とする。

更に、本研究はルーマニアの大学の日本語教育における欠如を補う試みでもある。大学では日本語初・中級を教えるために、既成の日本語教科書を使用しているが、年が経つにつれて、ルーマニアの日本語の教え方に不足している点に気がつくようになった。語彙や文型からみると従来の日本語教科書は大変役に立ち、日本語を学んでいる学習者が出来るだけ早く日本語の特徴になれるように構成されているが、慣用語はあちこちに散らばって、テキストの中には、それらを統合的に扱う章がない。そのような欠如部分を補うために、日本語・ルーマニア語の慣用語の多くの実例を踏まえ、慣用語に関する言語学の理論を応用して、日本語専攻の学習者に向けて新たなシラバスを作成することができれば、ルーマニアにおけるこれまでの日本語教育、日本語教材の欠如部分を補う一助となり、学生たちの日本語学習の有効な手段になると期待される。

展望:

本研究は日本文化、日本歴史、つまり日本の考え方の表現とも言えるイディオムの研究を、理論と実際を組み合わせる統合的に行うことを目指している。加えて、日本語及びルーマニア語を比較・対照しつつ学ぶことを通じ、共通点や相違点が理解出来るようになるシラバスの作成も期待できると考えられる。従って、このような慣用語を含む多くの例文は、日本語を学んでいる学習者にとっては習った語彙と文型の復習だけでなく、新しい単語と文型の基本ともなるだろう。同時に、日本語使用の背後に存在する事物の捉え方、認識の仕方を学ぶ、清新なアプローチともなるのではないかと思われる。そうすると、学習者が慣用語を知る

ことで、言葉のもつイメージの広がりを感じとらせつつ、豊かで正しい言語感覚を身につけさせたいし、慣用句の解説や例文を考えることを通じて、正しい使用法も学ばせたい。つまり、慣用句の学習では、慣用句全体の意味（解釈）はもちろん、どのような場面でどのように使うのが適切なのか、シチュエーションに合わせた例文を考えさせ、慣用句を正しく理解し使えるようにしたい。実際に使えるということが学習者の価値を高めることだと思われるからである。

- シラバスの中身を以下の通り考えられる。

I. 前書き：慣用句に関して

II. 日本語・ルーマニア語における慣用語句の持つ文化的な意味の比較・対照研究

II.1. 形と意味から見て、ルーマニア語に似ている日本語の慣用語句

例：雨が降ろうと、槍が降ろうと “tuna, fulgera, mergem inainte”；水に流す “a lasa lucrurile sa curga la vale”；羽を伸ばす “a-si intinde aripile”；肩身が狭い “a se face mic in fata cuiva”；

II.2. 意味から見て、ルーマニア語に似ている日本語の慣用語句

例：根も葉もない、風の便り “gura satului”；高嶺の花、雲をつかむよう “pasarea malai viseaza”；竹を割ったよう “om cu coloana vertebrala”；瓜二つ “(seamana) ca doua picaturi de ploaie”；すし詰め “ca sardelele”；

II.3. ルーマニア語にない日本語の慣用語句

例：鶴の一声 ‘vocea autoritatii’；後ろ髪を引かれる思い ‘regret pentru ceva lasat in urma’；一人相撲を取る ‘a te stradui de unul singur’；朝飯前 ‘o nimica toata’；匙を投げる ‘a ajunge la disperare’；刺身のつま ‘lipsit de orice importanta, nesemnificativ’；太鼓判を押す ‘a pleda cu entuziasm pentru cineva’；

III. 実用的な問題

III.1. 慣用語句カルタを作る（いろはカルタのように一文字ずつ割当てを決め、その字の慣用語句の面白さ）

III.2. 慣用語句に関連するクイズ（例えば、身体に関する事例にした O x クイズを通して、出題の仕方を知る。出題の仕方は、次の流れの通りである：問題、答え、使い方、由来、ワンポイントアドバイス）